

応募用キャラクター台詞一覧

No.01 燐(りん) 女 高校生

- ・キャラクター原案：雨野智晴 (EDEN'S NOTES)
- ・キャラクターデザイン：大野哲也 (ばじゃまソフト)
- ・キャラの特徴
外神田ジュエルの自称リーダー。実際のところはマスコット？
性格は勝ち気でちょっぴりわがまま、そして目立ちたがり屋。
感情表現が豊かで素直。っで、それがすぐに顔に出る。
蛭曰く「燐ちゃんはわかりやすいから、からかうと楽しいよ～」

【燐】
「あーっ！ もしかしてあんた、適合者？」

【燐】
「うわっと、いけないいけない！ これは秘密事項だった」

【燐】
「今の言葉、忘れて って言うか忘れなさい！ いいわね！？」

【燐】
「こほん」

【燐】
「……んで、あんた、外神田事務所に行く人？」

【燐】
「やっぱりね。んじゃ、事務所の場所、教えてあげるから、耳かっぼじってよ～く聞きなさい」

【燐】
「外神田の事務所は このまままっすぐ歩いていった突き当り、そこにでっかい黒いビルがあるでしょ？
そこが外神田ビルよ」

【燐】
「ま、いきなり向かうよりも、まずはアキハバラの町を散策してみるのがいいんじゃない？」

【燐】
「迷子にならないようにね。あんた、なんか頼りない感じがするから」

【燐】
「あ、そうそう。それと、あたしの名前は燐。また会うことになると思うから、よ～く覚えておくこと。わかった？」

【燐】
「もし、次会ったときに名前忘れてたら、思いっきり蹴るかんね」

【燐】
「んじゃね～」

【燐】
「あ、ねーねー、あんた、暇？ ってか、もちろん暇よね？」

【燐】
「この燐ちゃんが聞いているんだもん、例え忙しいとしても暇って答えるわよね？」

【燐】
「ふ、ふ～ん。この状況で忙しいとか言ってくれちゃうわけ？ ずいぶんと度胸があるのね、あんた」

【燐】
「ま、いいわ。無理強いしても良くないしね。暇になったら、また声かけてよ。んじゃーね」

【燐】
「お、さっそく捕まえてきたんだ。ごくろーさま」

【燐】

「はい、報酬の100デレよ。また見つけたら捕まえてきてね」

【燐】

「あんたには結構、期待してるからさ」

No. 02 真珠(しんじゅ) 女 高校生

- ・キャラクター原案：雨野智晴 (EDEN'S NOTES)
- ・キャラクターデザイン：鷹乃ゆき (サーカス)

・キャラの特徴：

外神田ジュエルス一の頭脳を持つ天才少女。
けど、その頭脳を活用有効する気はまったくないらしい。
普段は口数の少ないクールな女の子だけど、年に何回か異様にテンションの高い日があるとの噂。
が、その姿を見たことがある人は未だに存在しない。
蛍曰く「言ってみれば、真珠ちゃんってジュエルスの裏のリーダーみたいなもんよね」

【真珠】

「わたし個人の主観的印象を一言で語るなら『ばか』です」

【真珠】

「え？ 友達に……ですか？」

【真珠】

「えと、それは難しいです」

【真珠】

「あ、いえ、あなたとお友達になりたくないってことでは無くて……」

【真珠】

「その、わたし、人見知りをすると言いますか、そういうの、少し苦手で……」

【真珠】

「だから、その、もっとたくさんお話をしてからなら、お友達になれるかもしれませんね」

【真珠】

「そうですね。お友達って言うのがどういう関係なのか、あまりわかってないのですが……」

【真珠】

「こんなわたしでよければ、よろしくお願いします」

【真珠】

「そのようなプライベートな質問にお答えすることはできません」

【真珠】

「それは蛍さんに聞いてみるといいです」

【真珠】

「きっと教えてくれると思いますよ」

【真珠】

「それが真実かどうかはわかりませんが」

No. 03 蛍(ほたる) 女 高校生

- ・キャラクター原案：雨野智晴 (EDEN'S NOTES)
- ・キャラクターデザイン：かゆらゆか (インクルード・インク)

・キャラの特徴：

外神田ジュエルスのお姉さんの存在。
おちゃめで面倒見の良い性格なので、ジュエルスのメンバーからは慕われている。
でも、つついみんを甘やかしがちに。特に、年下の男の子には甘くなるらしい。

燐曰く「怒ると鬼よりも怖いから、絶対に怒らせないでね！ ってか、マジで怖いよ〜」

【蛭】
「えへへ〜、私のことが知りたいの？」

【蛭】
「う〜ん、どこまで教えてあげようかなあ？」

【蛭】
「えっとね、スリーサイズは〜、上から って、これを教えるのはまだ早いわね」

【蛭】
「じゃあ、私の趣味！ 趣味はお料理をすることかな」

【蛭】
「得意料理はズバリ、カレーと肉じゃが。今度、機会があったら食べさせてあげるね」

【蛭】
「ってことで、質問タイムはここまで」

【蛭】
「他の質問はまた機会があったときに答えてあげるわ。それじゃ〜ね〜」

【蛭】
「あー、やっほー、こんにちわー。ん？ なになに？ 蛭さんになにか用？」

【蛭】
「あ、もしかして、レシピが欲しいの？」

【蛭】
「まー、そうだよなー。まだまだ人の体温が恋しい季節だもんねー。恋、したいよねー」

【蛭】
「んでは、私とジャンケンをして勝てたらなんかのレシピを贈呈いたしましょー」

【蛭】
「ってことで、ジャンケンする？」

【蛭】
「ん？ なになに？ またレシピが欲しいの？」

【蛭】
「なら、蛭さんにジャンケンで勝たないとね。愛の道は険しいですよ」

【蛭】
「あ、でもでも、誠意を見せてくれたら.....少しだけ手加減してあげてもいいわよ」

【蛭】
「ほら、蛭さんも鬼じゃないしー」

【蛭】
「ってことで、ジャンケン、する？」